

歌

嶺

の

岐

讃

The scene of Sanuki

歌川広重

川瀬巴水

宮脇仲次郎

辻一摩

志度浦

2016.

2/27 sat ▶ 4/10 sun

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

入館料：一般300円、大学生150円(常設展観覧料含む／団体は20名以上2割引)

高校生以下及び65歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方は無料

休館日：月曜日(ただし祝日の場合はその翌日)

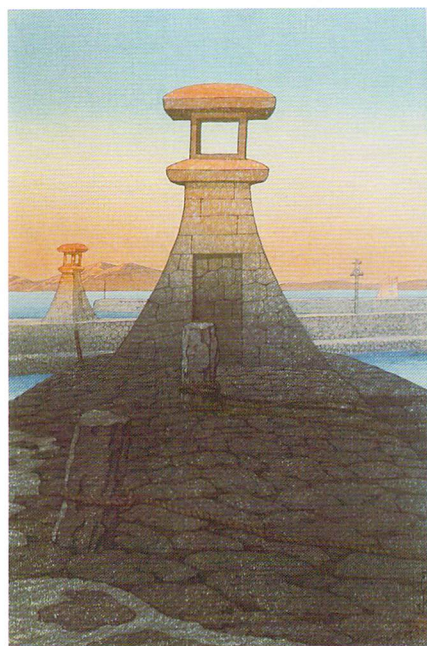
主催：高松市塩江美術館

同時開催 高松市合併10周年記念 熊野俊一・池原昭治 二人展 こころのふるさと

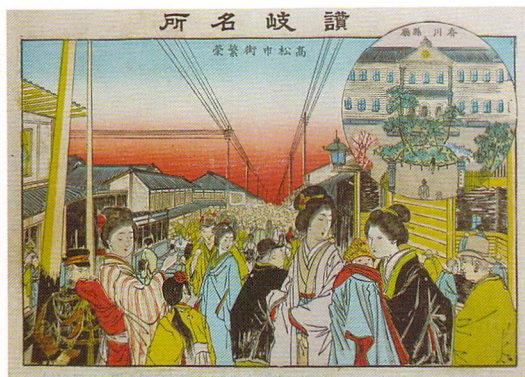
会期：2015年12月5日(土)～2016年4月17日(日)

場所：高松市塩江美術館 常設展示室

歌川広重(初代)《諸国名所百景「讃岐五剣山」》(部分)



川瀬 巴水《讃岐多度津》1936



宮脇 仲次郎《錦絵讃岐名所「高松市繁華街」》1901



辻 一摩

《版画集「金毘羅絵図」より「無形文化財蹴鞠」》1983



歌川広重(初代)

《六十余州名所絵図「讃岐象頭山遠望」》1853

讃岐の情景

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

入館料：一般300円、大学生150円(常設展観覧料含む/団体は20名以上2割引)

高校生以下及び65歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方は無料

休館日：月曜日(ただし祝日の場合はその翌日)

今日まで、なぜ名所旧跡を題材とした作品が、多く描かれてきたのでしょうか。

名所は古くは「などころ」といい、和歌の歌枕に詠まれ、特に名の立った地、名高い場所を指した言葉でした。文学、故事、神話、伝説に登場する名所、旧跡が「などころ」に当たります。しかし、江戸時代になって旅行が盛んになると、名所は実際に訪れることができる場所を指す言葉として用いられるようになり、各地に「名所(めいしょ)」が誕生します。江戸時代は、参勤交代によって街道や宿泊施設、乗り物等が整備され、貨幣の流通も進んだことにより、旅が安全、便利にできるようになり、1716年頃(享保)から庶民の間で旅ブームが起こります。また、初期の浮世絵のテーマは「遊女」と「役者」が中心でしたが、西洋の影響でテーマに風景が取り上げられるようになったのも一つの要因といえます。

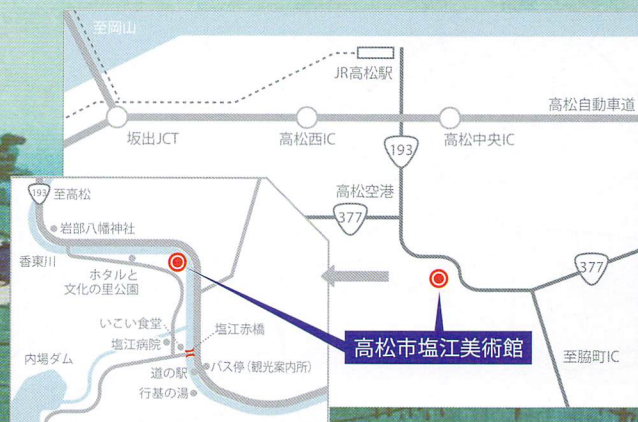
このように古くは江戸時代から、国内の名所旧跡が画題として取り上げられ、描かれてきています。あるときは観光名所のガイドブック的役割、またあるときは観光土産、そして近年では、失われつつある歴史的遺産を過去に描き残すため、としてなどその理由は、時代の流行や出来事、社会的背景により変化しています。

本展では、江戸から昭和にかけて讃岐(香川県)の名所旧跡を題材ととりあげて版畫の技法で、描きおこされた作品約35点をご紹介します。そこに写し出された時代背景もあわせてお楽しみください。この機会に是非、作品をととして讃岐の名所旧跡を巡ってみませんか。

高松市美術館・高松市塩江美術館
共通定期観覧券(年間パスポート) **¥3000** (65歳以上¥1500)

発効日より1年間、高松市美術館と高松市塩江美術館の特別展及び常設展を何度でも鑑賞いただけます。

*高松市美術館又は高松市塩江美術館の受付窓口にてお申込みください。

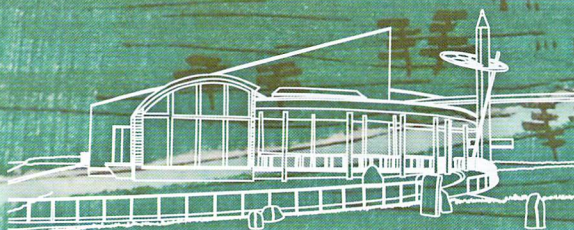


交通案内

バス：JR高松駅から「ことでんバス塩江線」約60分、塩江バスターミナル下車徒歩10分

自動車：高松市中央ICまたは高松西ICより約40分

飛行機：高松空港よりタクシーで約20分



高松市塩江美術館

Takamatsu Shionoe Museum of Art

〒761-1611 香川県高松市塩江町安原上602

TEL: 087-893-1800 FAX: 087-893-1833



塩江美術館 HP

歌川広重(二代)《諸国六十八景「讃岐津田浦」》1862(部分)